

「渡部コレクション」を事例とするアニメ中間素材利活用ルール策定に向けての調査と協議

国立大学法人 新潟大学

概要／課題

アニメ制作現場で生まれ、使用された中間素材は、アニメのメディア的特性をもっともよく体現する存在である。しかし、長らくの間、中間素材は制作が完了すると廃棄され、散逸してきた。本事業は、アニメの歴史的資料である中間素材の利活用こそが、アニメ文化の継承とアニメ産業の発展に資すると考え、1970年代半ばからアニメ制作に従事した渡部英雄氏より2016年に新潟大学に寄託された、アニメ中間素材資料体「渡部コレクション」を事例に選び、中間素材の社会的・法的位置付けを調査すると同時に、それらの学術利用を中心にした利活用に必要なルールについて、アニメ中間素材に関わるステークホルダーと協議した。

体制／手法

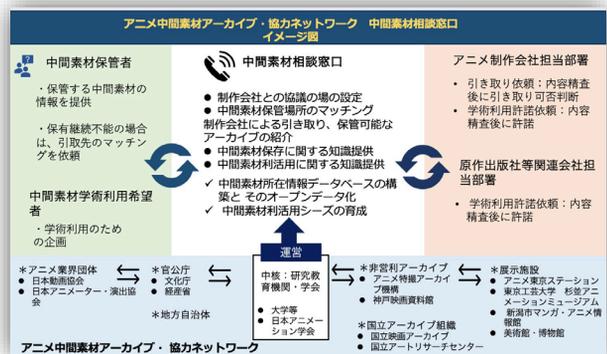
調査・協議は以下の4段階からなる。

- ①新潟大学アニメ・アーカイブ研究チームが、渡部氏を始めとするクリエイター、「渡部コレクション」に中間素材が含まれている制作会社各社等に、中間素材が置かれてきた状況とアニメ制作業界における中間素材についての認識、中間素材の学術利用に関する課題等をインタビュー調査した。
- ②①に基づき、クリエイター、アニメ制作業界関係者、アーキビスト、法律家、アニメ展示館運営者等からなる「アドバイザリーボード」が、クリエイター個人が制作会社の管理外で保管するアニメ中間素材が、クリエイターの高齢化とともに再度の廃棄・散逸の危機に瀕していることに鑑みて、以下について協議した。
 - ・中間素材の所在情報をアニメ制作会社等と共有する必要性
 - ・中間素材の歴史的・文化的価値と意義をひろく市民に伝える必要性
 - ・市民がアニメ文化を継承する機会を確保するための中間素材の学術利活用を可能にする仕組みの必要性
- 協議の結果、中間素材保管と学術における利活用の好循環を生み出す「アニメ中間素材アーカイブ・協力ネットワークと中間素材相談窓口」(図1)の必要性を認識した。
- ③①②の調査・協議をまとめた「本事業報告書β版」を作成し、アニメ制作業界関係者、アーキビスト、研究者、学芸員からレビューを受け、将来的に構想されるべき「アニメ中間素材アーカイブ・協力ネットワーク」と「中間素材相談窓口」のための指針を得た。
- ④「本事業報告書β版」の内容を1月末に下記の新潟大学HPにて公開し、一般市民・学生・研究者等からひろく意見を募り、③と併せて、今後の中間素材利活用に関する指針とする。

<https://www.arc.niigata-u.ac.jp/anime-materials/>

成果

- 「本事業報告書β版」(図2)を作成し、アニメ業界団体関係者、アニメ制作会社、アーキビスト、研究者、学芸員5名から、レビューを受けた。「アニメ中間素材アーカイブ・協力ネットワークと中間素材相談窓口」については、主に以下の見解が得られた。
 - ✓ 日本のアニメ文化としての価値を見出し、推進するには、アニメ業界と業界の外をつなぐ公の組織が必要である。
 - ✓ 中間素材の利活用に関しては、クリエイター本人になんらかの還元(金銭的なものも含む)が可能となる方法も模索できればよい。そのためにも、カット袋のように、制作関係者の生の情報が記載されている中間素材の保管は必須である。
 - ✓ 「中間素材相談窓口」は、制作会社等の管轄外で保管されてきた中間素材を、廃棄かオークションかの二択から救い出すことができるのではないか。



(図1)「アニメ中間素材アーカイブ・協力ネットワークと中間素材相談窓口」イメージ図